

小学校段階における動画コンテンツを用いた 教科横断型授業の考案と教育実践

—京都の伝統・文化を題材として—

津田 真秀・黒田 恭史

Educational practice plan to use movie contents for cross-curriculum learning
—Featured in traditional culture of Kyoto—

Masahide TSUDA, Yasufumi KURODA

教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要

第2号 (2020年3月)

Journal of Educational Research
Center for Educational Career Enhancement

No.2 (March 2020)

小学校段階における動画コンテンツを用いた 教科横断型授業の考案と教育実践

—京都の伝統・文化を題材として—

津田 真秀・黒田 恭史

(京都教育大学附属京都小中学校・京都教育大学 数学科)

Educational practice plan to use movie contents for cross-curriculum learning

—Featured in traditional culture of Kyoto—

Masahide TSUDA・Yasufumi KURODA

2019年11月29日受理

抄録： 京都の伝統・文化は各教科の教育内容と密接に関連していることに加え、全国の約2/3の中学生は京都に修学旅行に訪れることから、学習者・指導者の京都について学ぶ学習体系が必要である。筆者らは、大学生が制作主体となって京都について短時間で学習できる教科ごとの動画コンテンツを開発し、閲覧可能なウェブサイトを立ち上げた。本稿では、小学生を対象に動画コンテンツを活用した授業実践の有効性を検討した。

キーワード： 京都、伝統文化、動画コンテンツ

I. はじめに

小学校第3学年から始まる社会科学習では、身近な地域や市区町村の地理的環境や地域の様子の変り変わりを、地図帳や身近な資料を基にまとめる学習が行われる。それぞれの地域の特色を活かした学習が行われる中、とりわけ京都市内の小学校においては、地域の特色に応じた調査活動に加えて、京都の祭りや建築物等に関わる伝統・文化について学習していくことができる環境にある。具体的な調査活動は、校区を探検することから始まる。校区内に畑があるところは「京野菜」について、神社・寺など歴史的建造物があるところは「伝統・文化」について触れる機会を設けることができる。こうした地域に密着した社会科学習が進められている中、京都教育大学附属京都小中学校においては、様々な校区からバス・電車等を使って通学することから生徒の生活する地域がそれぞれ異なる。社会科の学習では、校区の地域を取り上げるが、必ずしも生徒の生活圏内であるとは限らず、生徒自身の生活と結びつけることが難しい。一方、異なる地域性をそれぞれの生徒が持っていることから、地域のことを調べる際には多様な意見を集約することができる側面もある。こうした背景を踏まえ、本校においては小学校段階における社会科の導入から、京都市内の多様な地域に触れることができる環境にあり、生徒の実態に応じて京都市内の地理的環境や地域の様子の変り変わりを学習する社会科学習をこれまで進めてきた。

ところで、京都市がまとめた観光総合調査結果(2017年)によると、全国の修学旅行生(中学生)が111万2千人に対し、京都を訪れた修学旅行生は78万2千人で全体の7割を占めている。京都には代表的な歴史的建築物をはじめとする重要な伝統・文化の発祥の地であることから、京都だけでなく全国の中学校教員は京都についての一定の知識が必要となる。京都教育大学では、各教科に関連する京都の様々な場面を録画、編集し、動画コンテンツを制作する活動に取り組んできた。専用のウェブサイトにおいては、京都の様々な魅力を伝えるために工夫された短時間の動画を手軽に視聴することができる。動画は、各教科の特性を活かして作成、分類されていて、修学旅行の事前学習に加え、小中学校での教科授業においても活用できることが期待される。

本稿の目的は、小学校第3学年を対象とした社会科学習「京都の伝統文化」において、上記の動画コンテンツを活用することで、どのような学習効果があるのかを検証することである。また、こうした実践が、教科横断型

としてどのような可能性があるのかについて言及する。

Ⅱ. 動画コンテンツについて

1. 動画コンテンツの概要

(1) 開発の経緯

京都教育大学においては、教員養成課程の学生が各領域・各教科に応じた教材コンテンツ制作に取り組んでいる。次期学習指導要領では、プログラミング教育必修化に伴い、教員の ICT 活用能力の向上が求められることもあり、教員養成の一環として近年では、大学の講義内容にも含まれ、作成された動画は京都教育大学公式 YouTube チャンネルで公開されている（図 1）。

こうした取り組みが行われる一方、京都には全国の約 7 割の中学生は京都に修学旅行に訪れること、京都の地理・歴史・文学・生活・美術・音楽は、各教科の教育内容と大きく関わることから、教科教育に加えて、全国の修学旅行生並びに引率者が手軽に京都について学べる環境作りを目指して、「京都に学ぶ・京都を発信する」プチコンテンツ・セルフガイド制作と題し、取り組みが進められている。具体的には、学生が京都の魅力を伝えるために様々な場所へビデオ取材し、各教科の内容に沿うよう編集し、視聴しやすいよう音声ガイド・字幕を挿入するなど、視聴する対象が小中学生にも理解できるように制作されている。

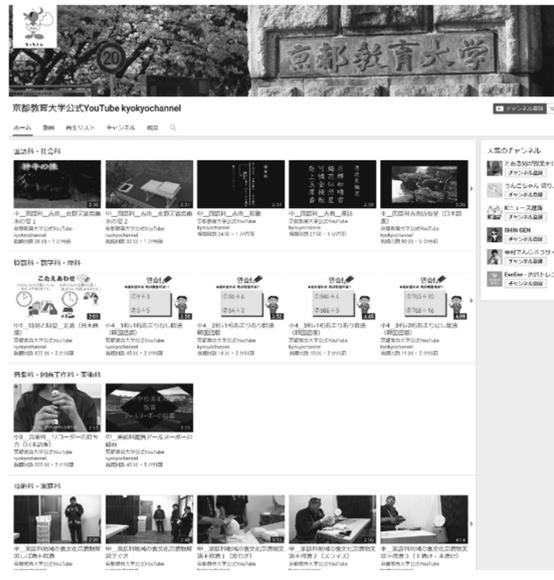


図 1 京都教育大学公式 YouTube チャンネル

今後様々な用途で活用できる動画コンテンツの教育現場における実用可能性を検証することが本研究の目的である。京都の伝統・文化に関する内容は社会科をはじめとする多くの教科において横断的な内容が含まれる。例えば、歴史的建造物であれば、それに関する歴史的背景、人物に加え、古典や和歌、さらには音楽が関わる場合、食文化であれば歴史や風土（地理）に加えて家庭科など、社会科を基盤とした他教科横断学習が可能な題材が豊富である。こうした要素に加え、課題を設定し、調査・分析する総合的な学習の時間においては、動画コンテンツを活用することにより、学習者主体の ICT 活用が可能である。本研究においては、動画活用による授業実践の可能性を、総合的な学習の時間としての枠組みとして単元を構成する。その際、社会科を基盤とした他教科横断的な学習内容を構築し、さらには学習者の ICT 活用能力の育成を意図した授業実践を行う。授業実践の効果については、学習者の授業での様子や制作物等を分析して明らかにする。

(2) 使用方法

開発された動画コンテンツは専用サイトにおいて無料で公開されている。「学まち京都」で検索すると図 2 のようなホームページ画面が現れる。GAKUMACHI（学まち）とは、大学と京都のまちを組み合わせた造語であり、(公益財団法人) コンソーシアム京都の「学まち連携大学」促進事業の支援を受けて実施している。

掲載されている動画は、京都教育大学の学生が、京都のまちの様々な魅力を学び、そのエッセンスを映像コンテンツ化しているものである。使用目的としては、小・中学校での教科の補助教材としての使用や、毎年、全国から京都を訪れる約 110 万人の修学旅行生の事前



図 2 動画サイト「動画で伝える日本の伝統文化」

学習などでの使用が期待される。

使用方法、並びに動画の検索方法は地図上検索・教科別検索・タグ別検索の3つがある。

地図上検索は、Google Mapと連動した検索機能により、京都の地図上にカーソルを合わせることで、関連する施設の動画がリストアップされる(図3)。例えば、「京都市立近代美術館」の施設にカーソルを合わせると、「鑑賞さわるコレクション」と関連動画のタイトルが表示され、下記に動画リンクが貼られている。



図3 Google Map と連動した動画検索機能

このように、修学旅行で訪れたい場所や散策ルートを決める際など、京都市内の地理を把握しながら関連施設の情報を簡易に得ることができる仕組みとなっている。

教科別検索は、トップ画面の「YouTube」のアイコンにカーソルを合わせると、「国語科・社会科・美術科・家庭科・技術科・算数科・音楽科」の教科名が表示され、クリックすると教科別に動画がまとめられたページに移動する。さらに動画には対象学年も設定されているため、小・中学校での教科の補助教材として使用する場合に指導者側が教科・学年に合わせて動画を検索できるようになっている。

タグ別検索は、動画視聴ページに関連動画のキーワードが一覧となっている。学習者が自分で操作して動画を検索する際、検索ワードを入力して調べることができることに加え、次々と興味のあるキーワードに着目して連続して視聴ができるようになっている。

(3) 教科別動画例

「京都の魅力を発信する動画コンテンツ」において公開されている動画は、京都教育大学の学生が、専門領域ごとに、京都で活躍する方々の姿を録画・編集し、動画コンテンツを制作したものである。各動画は短いタイプでは2〜3分程度、長いタイプでは10分程度で、教科・地域・学年など対象がそれぞれに設定されたものが表示され、学習者は関連した動画を次々に視聴することができる。動画の内容は、pptの画像に音声の説明がつくものや実際に現地を訪れ取材している様子を撮影しているものなどがある。

表1は教科別動画コンテンツ例と掲載件数を一覧にしたものである。「北野天満宮和歌」「仁和寺と文学」のように、京都の歴史的建造物と関連する和歌や文学を取り上げることで、歴史的背景に加え国語科の古典学習につながる構成となっている。動画内容は、大学教員が専門的に古典文学を開設しているものや、大学生が関連施設の概要を写真と字幕に音声解説を付け加えているものなどがあり、主に中学生を対象にした動画が12件となっている。社会科は歴史・地理などに焦点をあてた、現地に学生が直接訪れている様子などが公開されている。「日本の歴史」と題し、東寺・清水寺・平安神宮など、京都の歴史的建造物について情報を得ることができる。また、

「日本の農業『北山杉』」では大学生が実際に北山杉で木の伐採(図4)を行うなど、体験的な動画と解説が公開されている。こうしたフィールドワークを兼ねた学習状況を記録した動画や専門家による講演会など小中学生を対象とした関連動画が61件となっている。また、美術科においても現地へ直接訪れ解説している動画が主で、「京都の美術館に出かけよう」「鑑賞アールヌーボーの磁器」など、中学美術の鑑賞に関する動画が23件となっている。家庭科に関しては主に食文化に関する動画が掲載されていて、「京漬物解説しば漬千枚漬」では職人の解説と



図4 北山杉伐採の様子

ともに作られる工程などを視聴することができる。家庭科学習の調理実習などへの対応を意識した動画などもあり、中学生を対象とした動画が62件となっている。算数科では、文化に関わる学習内容として折り紙の制作動画が20件あり、小学校段階の全ての学年を対象としている。音楽科では、「歌唱茶つき」「リコーダーの持ち方」のように、小学校第3学年を対象とした音楽科の教育課程と連動した動画などを合わせて9件が掲載されている。

表1 教科別動画コンテンツ例と掲載件数（2019年11月30日現在）

教科	タイトル例（対象学年）	件数
国語	「北野天満宮和歌」「仁和寺と文学」（中学）	12
社会	「日本の歴史『東寺』（小6）」「日本の農業『北山杉』（小5）」	61
美術	「京都の美術館に出かけよう」「鑑賞アールヌーボーの磁器」（中学）	23
家庭	「地域の食文化『おたべ』『京漬物解説しば漬千枚漬』（中学）」	62
算数	「折り紙『さかな』『うぐいす』『やっこさん』（小学校）」	20
音楽	「歌唱茶つき」「リコーダーの持ち方」（小3）」	9

2. 教育現場への実践可能性

(1) 社会科との関連

京都市内の小学校社会科学習においては、教科書に加えて副教材「わたしたちの京都」を用いて京都に関連した地域教材について触れる（図5）。対象は小学校第3・4学年で、上下巻に分かれている。第3学年では上巻を取り扱い、地域の地理・特色、工場、さらには歴史についての内容が掲載されている。第4学年では、暮らしと水の関係や防災について、さらに京都市と密接に関わる琵琶湖疏水や地域を広げ京都府全域に関わることなどの内容が取り扱われる。

本実践までの社会科の学習においては、昔の道具や暮らしについてその特徴を調べたり、実際に使ってみたり、といった学習を通して、今の道具や暮らしと比べることにより人々の生活の様子が時間の経過に伴い、移り変わってきたことを追求・解決する活動を行ってきた。例えば、洗濯板を実際に使って洗濯する、七輪を使っておもちを焼くといった体験的な活動や生活にかかわる道具の移り変わりを調べ、それぞれの道具の特徴を考察する調査型の学習などである。調査型の学習に関しては書籍やインターネット、または実際に使用している人にインタビューするなどの方法を取り、学習者自身が調査する道具を選択し、まとめた結果を交流した。

また、本学の総合的な学習の時間においては、職業について書籍やインターネットを用いて調べ、その職業に就くための条件や具体的な仕事内容などについて報告書をまとめる活動を行った。とりわけ、インターネットを用いた調べ学習については全4時間の中で調べる際の注意点や具体的な検索方法などについて学習し、その後は学習者自らが課題を設定している。また他学年では、第5学年において、これまで京都に関する調べ学習を総合的な学習として位置づけた実践事例もある。

こうした背景を踏まえ、社会科や総合的な学習を進めてきた中で習得した学習内容と課題解決能力を活かして、動画コンテンツを用いた伝統や文化に関する課題解決学習を設定した。

動画コンテンツを使用することにより、学習者が簡易に調査対象を選択することができること、動画の特性を活かした視覚的な学習が可能なこと、といった利点が挙げられる。社会科・国語科・総合的な学習の時間といった教科横断的な内容も踏まえた学習を通して、手軽に伝統や文化について触れる機会の増加につながると考えられる。



図5 京都市社会科副教材

「わたしたちの京都」

(2) 実践事例の枠組み

実践の枠組みとして、導入の段階では、社会科学授業としての位置づけで、「昔の道具・暮らし」に関する学習内容について想起し、身近にある伝統や文化について取り上げる。図6は「私たちの京都」の地域や生活の移り変わりに関する内容である。ここでは、地域に残る古いものを見つけるというテーマのもと、歴史的な建造物や道具、祭事などが取り上げられている。実践の際、学習者の意見は自身の住む地域や京都市内の代表的な神社・寺などの施設、和食・食器など食に関わるもの、代表的な祭りや式典などの行事などの意見を挙げると考えられる。本学では、学習者は京都市内の様々な地域から通学しているものが多いため、それぞれの生活経験から多くの意見を引き出すことができると考えられる。調べたいテーマやその調べ方について確認し、動画コンテンツを用いた興味・動機付けが有効であるか、その可能性を検証する。



図6 地域や生活の変化

昔の写真・建物・道具・行事

ICT機器の活用については、コンピュータールーム等で動画コンテンツの使用方法について確認することができる。その際、使用方法で示した通り、ホームページ上からいくつかの方法で動画を選択することができることを伝えることにより、学習者が自ら興味のある動画にたどり着くことができると考えられる。例えば、教科ごとのタグから同じジャンルの動画を選択する方法ならば日々の学習と関連付けて、地図上の施設から選択する方法ならば住んでいる地域や行ったことのある施設を見つけるなどが考えられる。キーワード検索により表示された動画を選択する方法の際は、あらゆる検索ワードで目当ての動画が見つかるとは限らないことを伝え、動画コンテンツに加え施設ごとの公式ホームページなども参照することで、更なる情報を得ることができる。

上記のような活動で、調べて分かったことをパンフレットにまとめる制作物課題を設定する。ここでは気になる動画やホームページの写真などを印刷して資料として張り付け、制作の際は、調べたことを羅列するだけでなく、自身の感想や思いを付け加えることや、初めて見る人にわかりやすく伝えるためにレイアウトを工夫するなどの具体的な活動が想定できる。

Ⅲ. 小学校第3学年を対象とした教育実践

1. 教育実践の概要

教育実践の概要は、次の通りである。

対象：京都教育大学附属京都小中学校第3学年、は組計31名

時期：全7時間（45分×7）、2019年2月～3月

場所：京都教育大学附属京都小中学校

目標：京都の伝統や文化について興味関心を持ち、自ら課題を立て、書籍やインターネットなどを活用して調べたことを他者にわかりやすく伝えるよう工夫してまとめる。

単元指導計画：

第1次 …伝統や文化について知ろう（1時間）

第2次 …伝統や文化について調べよう（4時間）

- ・動画コンテンツの使い方を理解する。（1時間）
- ・動画コンテンツを使って伝統や文化について調べる（1時間）
- ・決定したテーマや施設などについてホームページなどを見て詳しく調べる（2時間）

第3次 …伝統や文化をパンフレットにまとめよう（2時間）

実践の位置づけ：

本実践は社会科学習を基盤とした教科横断型授業として位置づけられ、学習者主体の総合的な学習の時間の授業事例として位置づけられることをねらいとしている。図7は本実践の単元指導計画と教科学習との関連を表したものである。第1～3次においては、社会科の学習時間として単元を構成している。第2次以降の調べ学習においてはICT機器の使用を前提とした内容構成となる一方、各教科に関連する動画を視聴することで、教科横断型の学習を目指した。第3次のパンフレット制作により、ICT機器等で得た情報を具体物として作成することにより、学習者の伝統・文化に対する見識を広げることを意図している。その際、パンフレットの内容は社会科の学習内容に限定されることはなく、第2次と関連して複数の教科内容が含まれる制作物となることを想定している。

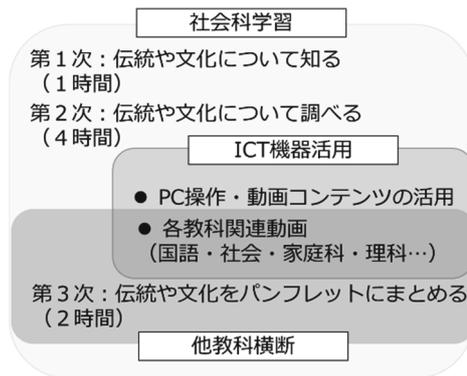


図7 単元指導計画と教科の関連

2. 教育実践の結果と考察

(1) 第1次 伝統や文化について知ろう (1時間)

第1次では、京都の伝統・文化への興味付けと動画コンテンツの紹介を教室で行い、今後の学習の見通しを持たせることを目的として単元の導入を行った。これまでの社会科の学習で、京都市内の様々な場所・施設などの移り変わりを写真などの資料を用いて学習を行ってきた。

授業においては、学習者の伝統・文化に関する認識を引き出すために、「伝統・文化と言えば、何が思いつく？」のように問いかけ、ノートに知っている限り書き出すよう指示した。この時点では、何が伝統・文化にあてはまるかなど、細かく考える必要はないと前置きした。机間指導の際、何を書けばよいか悩んでいる学習者に対しては、「行ったことがあるところか？」と地図を見せながら問いかけたり、副教材巻末資料にある京都の代表的な祭りの資料(図8)を見せ、「知っているものはある？」と聞いてみたり、学習者の生活体験に即したやりとりを意識した。

次に、学習者の伝統・文化に関する認識を引き出し、共有した後、動画コンテンツの一例を見せた。「北野天満宮」「日本の農業『北山杉』」「京漬物解説しば漬千枚漬」の3つを視聴し、感想を交流した。他にも様々な動画が用意されていること、次時以降は自分たちで動画を探して調べ学習をすることを伝え、最終的な目標として京都の伝統・文化に関するパンフレットを作ることを掲げ、単元における見通しを持たせた。その際、実際に回っている京都の建造物等のパンフレットや、伝統・文化に関連する書籍も提示し、インターネットで調べることに加え、書籍等も活用していくことを指示した。

その後、列挙した例を板書し、全体で共有する時間を確保した。机間指導の際に指導者側が把握した学習者の解答を念頭に置き、指名しながら発言を「建物」「祭事」「食」に分類していく。学習者自身は、発言の一つ一つを確認していきながら、黒板上でどのように分類されているかを考え、京都の伝統・文化について想起しやすい環境を整える。今回の実践においては、「建物」に関する解答は、「平安神宮・金閣寺・銀閣寺・北野天満宮」など、「祭事」に関する解答は、「祇園祭・葵祭・梅花祭」など、「食」に関しては、「漬物・京野菜・和菓子」などが挙げられた。

最後に、今後調べてみたい京都の伝統・文化に関することや授業の中で印象に残った動画の感想をノートに記入し、次時以降の学習内容に見通しを持つ時間を設けた。

京都市の主な行事と祭り	
1月 1日/ほつもうで 10日/十日まびす(あびす神社) 15日/近衛日曜日(通し矢(三十三間堂))	
2月 3日/せつぶん会(壬生寺ほか) 23日/五次方(龍徳寺) 25日/梅花祭(北野天満宮)	
3月 15日/ねはん会(東通寺ほか) 15日/お松明(清凉寺)	
4月 第2日曜/やすらひ祭(今宮神社ほか) 13日/十三まいり(法橋寺) 21日-29日/壬生きょうげん(壬生寺)	
5月 5日/くらべ馬(上皇宮神社) 15日/あおい祭 第3日曜/三船祭(御所神社)	
6月 1-2日/たききり(平安神宮) 20日/竹きり会(龍高寺) 30日/なごしのほらい	
7月 1日-31日/きおん祭(山ほこしゆん行-17日) 31日/千日まいり(叡吉神社)	
8月 16日/五山送り火(大文字山ほか) 8月中/うかい(蓮山) 下旬/地ぞうぼん	
9月 存秋の名月の日(観月の夕べ(大覚寺)) 第3日曜/ほぎまつり(飯木神社)	
10月 1-5日/すいぎ祭(北野天満宮) 12日/牛祭(広隆寺) 22日/鏡代祭	
11月 上旬/市民大茶会(二条城) 第2日曜/もみじ祭(龍山)	
12月 1日ころ-26日ころ/顔見世(南座) 14日/山科 善土まつり(大石神社) 21日/しまいころぼろ (東寺) 25日/しまいてんじん(北野天満宮) 31日/おけらまいり(八坂神社)	

図8 京都市の主な行事と祭り

(「わたしたちの京都」巻末資料)

(2) 第2次 伝統や文化について調べよう (4時間)

第2次の全4時間は本学コンピュータールームにて行い、1人1台のノートパソコンとインターネットを使用できる環境を整えた。1時間は環境設定と今後の活動の見通し、動画コンテンツに使用方法について学習し、残りの3時間は動画に加え、調べたいテーマについてホームページ等で検索し調べる時間とした。

指導の手順として、まず、動画コンテンツ専用サイトを検索し、デスクトップにショートカットアイコンを作成した。その後、動画コンテンツの使用方法を説明し、興味のある動画を自由に視聴するよう指示した。その際、学習者の発達段階を考慮し、視聴する動画については、対象学年が設定されているもの、短時間で視聴できるものに限定する。1時間の授業内において、ほぼ全ての学習者が動画コンテンツの活用方法を理解し、調べたい伝統・文化を決定することができた。

その後の授業時間においては、動画コンテンツまたは関連ホームページで得た情報をメモし、制作物作成に向けてそれぞれがパソコンを操作して調べ学習を行う(図9)。主に動画コンテンツを使って調べ学習を行う学習者は、活用していき慣れていくにつれ、動画の特性を活かして効率よく情報を集めることができていた。例えば、字幕で解説が出ているところが再生されている場合、知りたい情報が書かれているところで停止し、手元の紙にメモしたり、わからなかった部分や聞き漏らしたところを巻き戻して何度も再生したりなどが挙げられる。こうした学習経験により、必要な情報を自分で得るICT活用能力の獲得に寄与したと考えられる。また、施設等の公式ホームページで調べ学習を行っている途中で、内容が理解できない、漢字が読めないといった困難を示す学習者も少なくなかった。そうした場合、再度動画コンテンツに戻って関連動画を視聴している様子が見受けられた。



図9 動画コンテンツを操作する学習者

指導者側は、上記のような学習者活動の支援に加えて、調べ学習をまとめる制作物の資料作成の補助を行った。具体的には、最終課題のパンフレットに掲載する写真などを動画やホームページなどから切り取り、印刷する。なお、資料の量については、1人あたりA4用紙1枚とした。調べ学習がある程度進み、資料印刷も終了した学習者については先行してコンピュータ教室内でパンフレット制作に取り掛かるよう指示した。

(3) 第3次 伝統や文化をパンフレットにまとめよう (2時間)

第3次では、第2次で収集した情報をもとに、京都の伝統・文化についてまとめたパンフレットを制作する。学習者はこれまでに興味を持った題材を1つ取り上げ、動画コンテンツやホームページで得た情報をメモ用紙にまとめている。さらにパンフレットに掲載する施設の写真や解説資料などを精選してきている。まず、B4用紙1枚の紙を配り、半分に折り、制作するパンフレットを見開き冊子で作ること伝え、レイアウトの原案を提出するよう指示する。タイトルの文字の大きさや、掲載する内容、挿入する資料の配置などを決め、必ずどこかに調べ学習で得た自分の考えを書くスペースを確保する。レイアウト決定後、画用紙を2つ折りにして、制作活動に入る。図10は学習者の制作物作成の様子である。学習者は見やすさとわかりやすさを追求するため、制作中に他の学習者の意見を求める場面も見られた。



図10 パンフレット制作の様子

第3学年では、国語科の学習で説明する文章の構成について学習したり、社会見学で牛乳工場を訪れ、実際のパンフレット等の資料をもとにポスターを作成したり、今回の制作物作成につながる学習の経験がある。作成に際しては、どのようにレイアウトすればよいか、説明する文章が多すぎてまとめられないなどの困難がある学習者もいたが、これまでの学習を想起させるよう促すとスムーズに作成することができた。

IV. 制作物分析

第3次で2時間行われたパンフレットを分析することにより、学習者の動画コンテンツ活用状況や、伝統・文化に対する関心・意欲、意味理解を解明していく。

表2は、学習者が作成したパンフレットのテーマと件数を示したものである。祭事・行事では、「祇園祭」「葵祭」といった祭事が13件と最も多かった。特に「祇園祭」については、動画コンテンツ内に資料があること、副教材「わたしたちの京都」において大きく取り上げられていることなどもあり、学習者が選択しやすい祭事となっていたと考えられる。「北野天満宮」「仁和寺」「北山杉」「藤森神社」の合計は10件で、これらのテーマによる制作物は動画コンテンツを主たる資料としているものである。また、その他の建築物は8件で、学習者の生活圏内にある建物や行ったことのある施設を選択しているものが多く、これらは動画コンテンツ内において有力な資料が無くウェブサイト等を中心に調べ学習を行い制作したものである。

表2 制作物のテーマと件数 (N=31)

作成テーマ	件数
祭事・行事 (ホームページ・動画)	13
北野天満宮 (動画)	6
仁和寺 (動画)	2
北山杉 (動画)	1
藤森神社 (動画)	1
その他の建築物 (ホームページ)	8

次に制作したパンフレットの内容について分析する。図11は北野天満宮をテーマに作成されたパンフレットである。左上に「東風吹かば 匂いおこせよ 梅の花 主無しして 春を忘るな」と菅原道真の和歌が示されている。これは、動画コンテンツにおいて北野天満宮を紹介する動画にも掲載されている。次に、北野天満宮で行われる祭事「梅花祭」について左下に記載がある。これは副教材「わたしたちの京都」において記載があるが、詳細な説明はされていないので、学習者自らが動画コンテンツ並びにウェブ検索で調べたものである。さらに、右下には北野天満宮という施設についての記述がされている。これは、実際の見本パンフレット等を参考に、施設紹介をしている項目から参考に行っていると考えられる。

次に制作したパンフレットの内容について分析する。図11は北野天満宮をテーマに作成されたパンフレットである。左上に「東風吹かば 匂いおこせよ 梅の花 主無しして 春を忘るな」と菅原道真の和歌が示されている。これは、動画コンテンツにおいて北野天満宮を紹介する動画にも掲載されている。次に、北野天満宮で行われる祭事「梅花祭」について左下に記載がある。これは副教材「わたしたちの京都」において記載があるが、詳細な説明はされていないので、学習者自らが動画コンテンツ並びにウェブ検索で調べたものである。さらに、右下には北野天満宮という施設についての記述がされている。これは、実際の見本パンフレット等を参考に、施設紹介をしている項目から参考に行っていると考えられる。

総括すると、上記に述べた通り、和歌(国語)、祭事・歴史(社会)のように、1つの制作物の中に、他教科の内容が複数含まれ、学習者自身で調べ上げたことが反映されている。

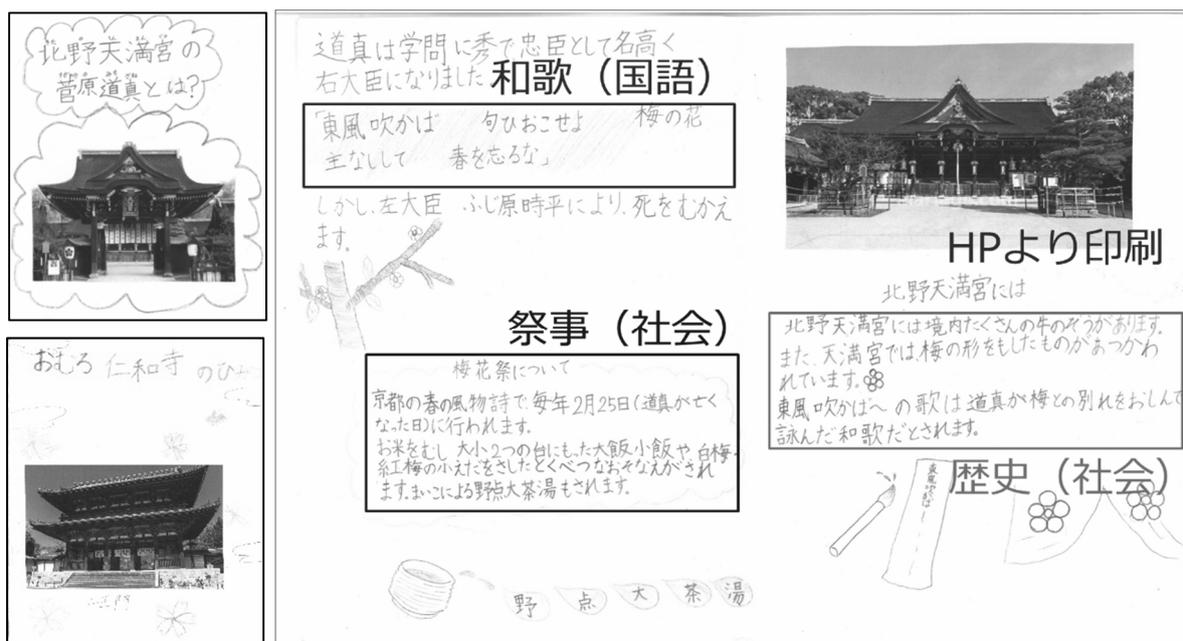


図11 制作物の表紙(左)と他教科横断的な内容構成のパンフレット事例(右)

V. 成果の公開

本実践における動画コンテンツを用いた教育実践の成果を京都教育大学公式 YouTube チャンネルにおいて公開している。京都の伝統・文化に関する内容は教科教育の授業に加え、京都を訪れる修学旅行生や教員等への事前指導にも有効であると考えている。そこで、動画コンテンツの概要、使用方法、授業実践事例をまとめた動画を筆者自身が作成した。なお、動画は ppt で作成した資料を筆者が目の前で解説している形式（図 12）で、約 8 分程度のもとなっている。

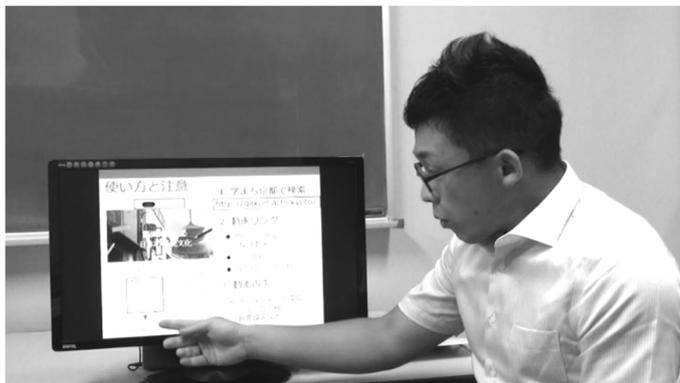


図 12 動画コンテンツの使用について説明する筆者

具体的な内容として、まず、視聴者の修学旅行先を想起させたり、修学旅行先ランキングなどをクイズ形式で問いかけたりすることにより、京都を訪れる修学旅行生の現状、さらには、案内する側となったときに必要最低限の知識が必要であることを主張した。次に使用方法について簡単に説明した後、動画コンテンツの具体的な事例（藤森祭・京町家インタビュー・お雑煮作り・千枚漬け・北山杉）を動画とともに筆者が音声と身振り手振りで説明する。それらの動画を用いた授業実践の記録として、北山杉の伐採を視聴している小学校第 3 学年の授業風景を視聴することができる。加えて、動画を停止・巻き戻しするなど、パソコンを操作して必要な箇所をメモする学習者の様子も紹介している。

また、本実践における動画コンテンツを用いた学習について、「動画コンテンツを用いた課題解決学習に関する指導案」と題し、作成した。内容は、動画コンテンツを含めた小学校第 3 学年を対象とした社会科、国語科、総合的な学習の時間に関する教材観と指導上の留意点等を詳細に記載したものである。全 4 時間の単元計画のうち、導入の 1 時間の目標、評価、授業展開例、板書計画も内容に含まれている。これらを参照することにより、動画コンテンツを教科学習に導入したいと考える指導者の補助資料となることを想定している。指導案は今後 Web 上でも参照可能となるよう公開予定であり、授業実践動画と併せて成果を公開に役立つよう普及していきたいと考えている。

VI. まとめ

本稿では、小学校第 3 学年を対象とした社会科学習「京都の伝統文化」において、動画コンテンツを活用することによる学習効果を検証すること、教科横断型としての実践授業を再作物と合わせて分析することであるこれらの目的に対し、本実践における教育的効果を以下のように整理した。

1. 動画コンテンツを用いた授業実践により、学習者自らが ICT 機器（パソコン）を操作し、自ら課題を主体的に選択し資料を収集することで、総合的な学習と関連した ICT 活用能力の育成に寄与したこと。
2. 社会科を基盤とした京都の歴史・伝統に関する教科学習として、学習者が意図せずとも題材に触れ、制作物を作成する過程で、教科横断的な学習効果が期待できること。

今後の展望として、動画コンテンツの作成においては、さらに幅広く他教科・他学年に対応すること、教育実践においては、他学年においての実践事例の検討が考えられる。

付記

本論文は、「津田真秀，黒田恭史（2019）「動画コンテンツを用いた教科横断型授業の考案と教育実践—京都の伝統・文化を題材として—」日本教育実践学会第 22 回研究大会論文集 pp.36-37」の内容を大幅に加筆・修正したものである。

参考・引用文献

- 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）』，日本文教出版
- 京都市（2017）『京都環境総合調査』，
<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/cmsfiles/contents/0000240/240130/kyosa29saishu.pdf>（2019年11月30日現在）
- 「京都教育大学公式 YouTube チャンネル」，www.youtube.com/channel/UCbFgl-Qeb-ytfZY0VvlBraQ（2019年11月30日現在）
- 「京都の魅力を発信する動画コンテンツ」<http://gakumachi.kyoto/>（2019年11月30日現在）
- 京都市小学校社会科研究会（2016）『私たちの京都3・4年上』
- 京都市小学校社会科研究会（2016）『私たちの京都3・4年下』
- 北俊夫ほか（2018）『新しい社会3・4上』，東京書籍
- 北俊夫ほか（2018）『新しい社会3・4下』，東京書籍
- 「北野天満宮」，<http://kitanotenmangu.or.jp/>（2019年11月30日現在）
- 「祇園祭概要」，八坂神社，<http://www.yasaka-jinja.or.jp/event/gion.html>（2019年11月30日現在）
- 津田真秀・黒田恭史（2019）「動画コンテンツを用いた教科横断型授業の考案と教育実践—京都の伝統・文化を題材として—」日本教育実践学会第22回研究大会論文集 pp.36-37